人　歌集「未完の韻律」出版

高橋　道さん（78歳・洞爺第1）

洞爺湖畔に暮らして53年。木賊短歌会（事務局・洞爺湖町）に出会って50年。節目節目に刊行してきた短歌集も5冊目となりました。

昭和49年の第1歌集「細き子の髪」以来、平均するとほぼ10年に1冊のペースで、歌集を出版してきたことになります。

今回の歌集は、平成20年から24年までの作品約700首が収められています。

その中には、故郷福島を襲った東日本大震災での心境を詠んだ歌や晩節の日々を鋭く凝視した歌も収められていて、短歌への愛着とあくなき探求心を見てとることができます。

「50年はあっという間…。日常生活を題材に、暮らしの中で浮かんできたこと歌にしてきた」「歌は体の一部になっていて、杖のように、私を支えてきてくれた」と人生の同伴者のように共に歩んできた短歌の道を振返ります。

「歌集はこれで最後でしょう」と言いながらも「元気なうちは歌は続けていきたい」創作活動に意欲をしめします。

歌と杖携え何処へいかんとや
春来る湖に未完の韻律

津波想定の住民避難訓練実施
避難準備、避難路を確認

町の津波ハザードマップを基にした避難訓練が、10月19日初めて行われました。

浸水予測地域の虻田1区から入江3区まで住民約140人が参加し、避難準備、防災グッズ持参、避難所までの道のりなどを確認しました。

洞爺湖町では、昨年11月に津波ハザードマップを作製し、全戸配布した後、引き続き図上訓練や防災講座を行い、防災意識の高揚に努めてきました。今回はその総まとめとして検証型訓練を実施したもので、職員も閉庁時を想定し、自宅から出動するまでの時間や災害対応について検証しました。

歩行が不可能な要援護者を搬送する救急車

10時に、十勝沖を震源とする震度5の地震が発生し、その後大津波警報を発令したことが防災行政無線で告げられ、訓練が開始されました。住民らは、それを聞き、JR室蘭本線より上にある虻田小学校体育館など4カ所の避難所をめざし、洞爺駅の自由通路や踏み切りを徒歩で渡りました。

要援護者についても、職員が対象の各家を巡回し、要援護者宅の経路や所要時間を確認しました。自力歩行が不可能であることを想定し、救急車の出動を要請する訓練も実施されました。

参加した自治会長は「以前図上訓練でルートを確認していたので、今日はスムーズに避難できた」と訓練の大切さを話しました。

訓練後は、伊達警察署の防災担当者から「防災講話」があり、東日本大震災のDVDを鑑賞した後、津波のしくみや防災への心構えなどを話し、改めて防災意識を喚起しました。

東日本大震災のDVDを鑑賞する参加者